

## 国文学研究資料館報

第47号

平成8年9月

コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所  
との学術交流協定について

去る二月八日、パリで、本館佐竹明廣館長とコレージュ・ド・フランス日本学高等研究所 (College de France, Institut des Hautes Etudes Japonaises IHEJ) ヘルナール・フランク所長の間で、両機関の学術交流に関する覚書が署名され、協定が発効した。この協定によって両機関は、①研究者の交流、②共同研究の実施、③講演・講義・シンポジウムの実施、④学術情報及び資料の交換などを行なうこととなった。

この協定は、佐竹館長、フランク所長を中心にかねて検討を重ねて来たものであって、当館では部長会議、日本学高等研究所では評議員会の議を経て合意に到ったものである。二月、松野企画調整官、

森沢管理部長が館長に随行、ロータムンド教授、ビジョー教授らIHEJ評議員と最終的な打合せを行ない、調印された議定書が交換された。

協定には、当面五年間の期限が設けられているが、解消の申出がない限り、効力はその後も継続する。

この協定によって、本年度に新たに開設された国際研究室に、初代の客員教授としてフランシーヌ・エライユ博士が十月に着任される。博士は日本古代史と文学の研究で著名なフランス学士院賞受賞者。『御堂関白記』の全訳で山片蟠桃賞も得られている。当館では『本朝麗草』を中心とした平安朝の歴史と文学についての共同研究が

目次	頁
コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所との学術交流協定について	1
シンポジウム「コンピュタ国文学について」	2
研究情報部事業報告 立川寛彦	3
文庫資料部事業報告 岡野浩	6
修閑閣図書事業報告 大西廣	8
原本テキストデータベース事業始動	10
評議員他名簿	12

予定されている。また、十一月七、八日に当館で開催される国際日本学研究会では、エライユ教授の講演「平安時代貴族社会における作文」、ビジョー教授の招待発表「谷崎潤一郎『少将滋幹の母』」にあらわれる平安時代のイマージュも予定されている。

一方当館からは松野が、十一月半ばから四週間、同研究所での『六百番歌合』の講読と、フランス国内の国文学資料の共同研究のために派遣される。なお、平成九年度は、ロータムンド教授の招聘と本館教授一名の派遣が決定しているほか、来年度から三年にわたって毎年三名の短期招聘と共同研究が計画されている。

コレージュ・ド・フランスは、大学とは全く体系の異なる、日本にはない、高等教育機関である。約五十人の教授陣を擁し、この教授はフランス学士院およびコレージュ教授団の推薦により国家元首

第十二回国際日本学研究会	14
ホームページの開設	15
文庫紹介 24	15
会報	16
収束講座セミナー	17
利用者へのお知らせ	18
人事異動	19
平成8年度秋修学	20

が任命する。教授は各人の研究テーマで自由に講義し、聴講は自由。その時代の一流人物が教壇に立つことで知られている。日本学高等研究所の前身はパリ大学の日本学研究所で、一九三四年に三井合名会社の助成金で設立されたが、一九七三年のパリ大学の分割により、コレージュ・ド・フランスの付属機関となった。現在フランク教授以下十名の研究スタッフが在籍が、そのうち八名は客員研究員で、国立高等研究院、パリ第七大学、東洋言語文化研究所の大学院担当教授である。

今年五月、第三刷が刊行された『方忌みと方違え』(岩波書店)を初めとして、『今昔物語集』(ガリマール書店、解説と注釈)、『源順集』(「恵慶法師集」)『成尋阿闍梨集』の注釈と研究など、長年にわたって日本の文学と宗教に幅広い考察と新見を加えられたフランク教授を筆頭とするスタッフとの研究交

流は、かならずや国内の研究情況への新風をもたらすこととなろう。これを端緒として、当館では各国の日本学研究機関との水準の高い交流を積みあげて行く所存である。

(企画調整官 松野陽一)

## 国文学研究資料館略沿革

昭和41年12月 日本学術会議が「国語・国文学研究資料センター(仮称)」の設置を政府に勧告。  
昭和45年9月 学術審議会が「国文学研究資料センター(仮称)」の緊急設置の必要性を文部大臣に報告。  
昭和47年5月 創設。  
昭和52年6月 開館式挙行。  
昭和62年4月 マイクロ資料目録及び当館蔵和古書目録のデータベースオンライン検索サービス開始。  
平成4年4月 国文学論文目録データベースオンライン検索サービス開始。  
平成8年2月 コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所との学術交流協定締結。

## 第二回シンポジウム コンピュータ国文学について

データベース室長 中村康夫

例年恒例のコンピュータ国文学のシンポジウムは、科学研究費重点領域研究「人文科学とコンピュータ」テキスト処理班のシンポジウムと協調し、「人文科学とコンピュータ」シンポジウムとして、今年度は機械振興会館(東京タワーの下にあります)を会場に、10月17日と18日の二日間の行事として企画しております。多数ご参加ください。

④ 自然科学分野の論文と口頭発表のディスコース分析 梅咲敦子(帝塚山短期大学)  
⑤ 重点領域研究継続公募研究発表表 古典籍の組版の問題と「E」の応用 金水敏(神戸大学)  
⑥ 国文学研究諸葉の電子化辞書形成の試み 松村雄一(国文学研究資料館)  
⑦ 遠隔地日本語学習への支援と刺激素材 柳沢好昭(国語研究所)

【第一日】 10月17日(木) 10時、  
挨拶 佐伯昭廣(国文学研究資料館長)

パネル討論 国文学と国語学におけるコンピュータ利用と研究  
ユータを利用した研究

フランスにおける日本学研究所の現状(仮題)ドウラエ・ユベール(コレージュ・ド・フランス極東研究所)  
科学研究費重点領域研究「人文科学とコンピュータ」テキスト処理研究 安永尚志(国文学研究資料館)

司会 中村 康夫(国文学研究資料館)  
パネリスト 金水敏(神戸大学) アー・アンドルー(慶應義塾大学) 渋谷 栄一(高千穂商科大学) 鹿倉秀典(関東短期大学) 杉田まゆ子(国文学研究資料館)  
【第二日】 10月18日(金) 10時、  
重点領域研究継続公募研究発表表

① 英語中研究支援のコンピュータ可読データベース・テキストの果たす役割に関する研究 池下恵子(成城大学)  
② オブジェクト指向型日本語辞書の作成とのためのツール 郡司隆男(大阪大学)

① Heikinko Copusとは何か 西村秀夫(神戸大学)  
② Problems and Solutions for Mongolian Related Scripts text Processing 片岡朋子(早稲田大学)  
③ POETS報告 ビーターソン・グレゴリー(ノートルダム女子大学)

③ 並行法概念による詩テキストの処理 菱川栄一(神戸大学)

④ コーパスを利用した談話分析

上村隆一(福岡工業大学)

特別講演 人文科学とコンピュータ(仮題) ホッケイ・スーザン

(CETH:Center for Electronic Texts in the Humanities)

重点領域研究継続公募研究発表表

⑤ 読書支援システムの本文の語彙分析ー日本語教育の視点からー

鈴木康子(国際基督教大学)

⑥ 「諸藩邸江戸記録一覽」について 武井協三(国文学研究資料館)

講演 展示図録のデータベース化について 山崎誠(国文学研究資料館)

講演 古辞書研究とJIS漢字 池田証寿(信州大学)

閉会挨拶 立川美彦(国文学研究資料館)

(プログラムには若干の変更があります)

機械振興会館

東京都港区芝公園3丁目5番8号

電話〇三(三四三四)八二二一

交通

地下鉄

日比谷線神谷町駅下車徒歩7分

都営三田線御成門駅下車徒歩7分

都営浅草線大門駅下車徒歩12分

JR 浜松町駅下車

バス 浜松町・東京タワー路線

渋谷・東京タワー路線

バス 東京タワー前下車すぐ

## 研究情報部事業報告

立川 美彦

平成七年度、研究情報部には、新たに情報メディア室が設置され、七月一日付で丸山勝巳教授が着任、次の六室の体制が整った。

情報資料室 武井協三室長

情報分析室 松村雄二室長

データベース室 中村康大室長

情報処理室 安永尚志室長

情報メディア室 丸山勝巳室長

研究開発室 立川美彦室長

情報メディア室においては、国文学に関するマルチメディアの統合処理及びこれに必要な調査研究を行う。他の五室の所掌は従来の通りである。

## 情報資料室

第十九回国際日本文学研究集会を、十一月九日、十日に開催した。参加者数は、一一六名（内、海外から三九名）であった。二日目を芸能の小特集とし、竹下玲子氏の警女唄の実演を加えた。

新聞掲載の国文学関係記事の収集は、例年どおり順調な進捗を見た。館報も例年どおり二回の発行を行った。

## 情報分析室

情報分析室の最大の業務である『国文学年鑑』平成六年版の編集を完了し、予定通り平成八年三月末に刊行することを得た。

平成六年版の概要はほぼ次のとおりである。

◇雑誌・紀要・論文集所載論文件数 一二三三三件

◇新聞所載論文目録 四九件

◇学会一覧 四二学会

◇学会研究発表一覧 七二五件

◇新指定文化財目録 一六件

◇平成六年度文部省科学研究費等交付一覧 三四一件

◇受賞一覧 七八件

◇訃報 三九件

◇単行本目録 二四〇二件

◇収載雑誌紀要一覧 一〇八七件

◇翻刻・複製一覧 一一一件

◇執筆者索引 八五二人

本年鑑は雑誌紀要所載論文数がたまたま昨年度版より三〇〇件近く減少するという結果がでたが、他の部分の増大によって、総ページ数はほぼ同じ、発行所による価格も据え置かれた。

情報分析室の将来にわたる課題

としては、昨年に引き続き次の二点がある。

① 論文データの増大にともなう業務スケジュールの過密化とアルバイト人員確保の問題

② 年鑑横組み化移行の問題と国文学論文目録データベースとの連係の問題

①に関しては、ここ数年増大一方であった論文件数が昨年に關しては小康を得たことになるが、これは一時的な結果だと思われる。業務の過密化は変わらない。

②は、当館の大型計算機システム更新の問題に付随して発生した課題である。移転時にともなう研究情報部の新体制の確立をにらみつつ、従来の国文学年鑑から国文学論文目録データベースへという流れを構築することが中心となる。現在そのために不可欠な問題であるコンピュータ初期入力の問題、論文自動配列の問題など、情報処理室・データベース室と共同で、そのプログラム開発を試行的に実験している。

## データベース室

データベース室の事業は三本の柱で成り立っている。一つは室の

創設以来の主事業である国文学論文目録データベースのデータ追加搭載、もう一つは平成三年度よりデータベースの構築を進めている古典人名データベースの推進、さらにもう一つはデータベースの利用サービスを応援する事業である。

国文学論文目録データベースとしては、平成七年度は、新規一分として平成五年の分（レコード件数二一、四三四件）、遡及として昭和五十年（同五、四一三件）、昭和五十一年（同五、三二一件）の三年分を追加搭載し、その結果、平成八年四月一日からのデータベースにかかる総件数は一六〇、〇〇〇件をわずかながら超えた。

古典人名データベースは、件数の多さを追求する方向から、次第に、利用頻度の高い人物記録のデータベース化を考える段階に入りつつあり、公卿補任からのデータ抽出に取り組みを始めた。もとより、この難度は相当に高く、成形が見通せる段になるまでに三年以上はかかるものと考えられる。

データベースサービス業務は、具体的には情報処理室の努力によって、サービス時間の延長、インターネット経由での検索の実現があり、実際にその影響は大きく、

利用者も伸びたが、その利便が広く受け入れられるよう広報や具体的な案内を行なうことが必要であった。これは、予算等の制約もあり、今後の課題として残った。

平成七年度に第一回を開催した「シンポジウム コンピュータ国文学」については、前号の館報に記述したので参照されたい。

#### 情報処理室

情報処理システムの運用・運転を除く平成七年度の事業は、以下のように実施した。

##### (1) サービスの向上

これまで実験的に運用していた公開データベースの延長運転時間を、正式に午後九時までとした。また、ホストコンピュータをインターネット上で公開し、データベースへのIP接続を可能とした。このことにより、通信速度向上など、利用者の便宜は大幅に計られることとなった。加えて、データベースの安定したサービス提供及び人員の負荷軽減を目的として、計算機室に自動運転監視盤を設置した。

##### (2) 業務システムの運用

マイクロ資料目録、研究論文目録、古典籍総合目録、本文のデータベースなどの運用機能拡充などを行い、平常通りの運転を実施し

た。また、資料管理、OPAC、文字セット管理システムなども平常に稼働している。

##### (3) 通信環境の整備

昨年度実施した館内LANにおいてネットワーク接続された各専用端末にTCP/IP対応のネットワークアプリケーションを導入し、計算機室内のワークステーションをメールサーバとして立ち上げて、本格的なメールシステムを稼働した。このシステムは非常に好評で、館外とのメールのやり取りはもちろん、館内においても委員会の開催通知その他の事務連絡に十分活用されている。

##### (4) 新規システムの導入

特別設備費によって、国文学フルテキストデータベースサーバ装置の導入を行った。このシステムは、サン・マイクロシステムズ社製SPARCServer1000及びSPARCstorage1により構成される。

##### (5) 新規システム開発

本文データベース、SGMLへのデータ変換などの研究開発を行い、実験用システムを実現した。

「二十一代集」及び「奈良絵本」を基本とする画像データベースとテキストデータベースの複合シス

テムの研究開発に成功した。

##### (6) 情報処理システムのリリース

平成八年度に予定される情報処理システムのリリースに向け、政府調達のための各種準備を開始し、実行段階に入った。具体的には、仕様書案を作成し、情報システム仕様策定委員会を経て情報システム委員会が最終的に承認を得た。

##### (7) 国際接続

前年度に引き続き、主に、科学研究費により、英国、米国、ドイツ、カナダなどから当館データベースへの国際接続実験を行った。また、各国におけるネットワークの現状調査を行った。

##### (8) 館外との協力

人文系共同利用機関情報システム連絡会において、各機関の情報処理システムの現状、WWW情報資源の公開及びホームページなどについて各機関との情報交換を行った。

##### (9) システム運用管理体制

定員削減に伴い、次年度以降の運用管理体制及び業務の見直しを行った。

##### 情報メディア室

情報メディア室は、国文学研究のためのマルチメディア統合処

理の研究を目的に平成七年度に新設された。国文学研究で用いられる多種多様な原本資料や本文資料の電子資料化と関連資料間のハイパーリンク結合、及びインターネット等の計算機ネットワークの活用により、目的とする資料をネットワーク経由で何処からでも直ちにアクセスでき、更に研究成果や意見の交流が行える「電子資料館システム」の研究を進めている。本年度は、情報処理室との連携のもとに以下の進捗をみた。

##### (1) 電子資料館システム概念構築

本システムはいわゆる電子図書館システムの一分野であるが、国文学・国史学を対象とするには独自技術の開発も必要である。例えば、多種多様な作品構造への対応法、多数の文字種と外字への対応法、脚注・頭注・傍記等の表現法、写本や刊本の膨大な量の画像データベースの構築法、検索表示法などをマルチメディア技術とハイパーリンク技術を活用して実現する。ネットワーク経由で情報を検索・アクセスする仕組みとしては、インターネットのWorld Wide Web(WWW)技術を活用する。

(2) 電子資料館のプロトタイプ  
全文検索プログラム、テキスト変

換プログラム、本文と原本画像との  
 相關プログラムなどを試作し、電子  
 資料館のプロトタイプ実験を行な  
 い、使い易さと便利さを実証した。  
 本システムはWW技術を活用した  
 もので、館外からも次項の本館ホ  
 ムページを経由してアクセスでき  
 る。二十一代集（データベース室の  
 科研費研究成果）の例では、本文の  
 全文検索や原本画像表示が簡単に  
 行えて好評である。また、ネットワ  
 ークを使ったグループ研究のための機  
 構なども試作した。

### (3) 当館のホームページの開設

当館のホームページ（インターネ  
 ット上のWWサービス）の試験運  
 用を開始した。閲覧室や史料館の利  
 用案内、展示やシンポジウムの案内、  
 事業概要説明とともに、前述の「電  
 子資料館実験」も行っている。本ホ  
 ームページは、将来の正式サービ  
 スに向けて各種データを収集する事も  
 目的とする。

### 研究開発室

1 平成6年度に引き続き、藤原  
 鎮男客員教授のもとで、「国文学研  
 究支援二ヶ国語用語知識ベースの  
 開発」の構想のために、その対象  
 となる用語データの事前整備を行  
 なった。

本構想は、用語管理方式を、現

在の大型コンピュータを使用して  
 のハビネスデータベース方式によ  
 る管理から、パーソナルコンピュ  
 ータ基盤に変換するための基礎作  
 業である。

本研究対象データは、小西甚一  
 著『日本文芸史』（英文）の用語を  
 対象としている。昨年度に作成さ  
 れた方式を基に、7年度は用語語  
 彙の拡充を進め、約六千四百語の  
 データを得た。さらに、用語の構  
 造・分類化を容易にするために、  
 「国文学英語用語」「国文学英語単語」  
 データを作成し、上記データから、  
 「英語単語出現頻度」データを生成  
 させ、標記分野における英文の用  
 語・単語の特性を数量的に分析可能  
 とした。

これらの用語には、一般名詞、  
 当時の日本人の思想・価値観・感  
 性などを表現する形容詞、または  
 作品名・著者名などの固有名詞の  
 ほか、中国やインド起源の名詞な  
 ど様々な用語が含まれる。本年度  
 迄に採録された実験用データは、  
 複合語中心のものであるが、その  
 分解作業や、基本語と類義語の階  
 層化を進めるための事前作業は本  
 年度を以て終了した。

2 昨年度に引き続き、中川博夫  
 助教授を中心に館内外からの参加

者を得て、万葉集データベース  
 (DB)の研究開発に取り組んだ。  
 西本願寺本を底本とした「標準態」  
 (通行字体・正訓)の基本データの  
 入力、データ校正修正のための基  
 本方針とマニュアルの策定を承け  
 て、今年度は、第一次の校正修正  
 作業を行い、そこから生じる  
 様々な問題点の検討を通じて、万  
 葉集DBの可能性を追及した。

〔作業経過〕四月二十七日に開発研  
 究小会議を開き、第一次校正修正  
 従事者への説明を行い、その後順  
 次作業に取り掛かり、年度内には  
 ほぼ終了して、問題点のカードを集  
 積した。併行して七月二十一日と  
 十二月二十一日に開発研究会議を  
 開き、また数回の小会議を持ち、  
 第一次校正修正の具体的問題の解  
 決方法と、今後の万葉集DBの開  
 発研究の進め方等について論議し、

「原態」(底本の字体・傍訓による)  
 の保留(実現の困難度・利用の特  
 殊性を勘案)と「標準態」への傍  
 訓の付加(訓の領域の複数化)を  
 決定した。これに従い、次年度に、  
 第二次校正修正の段階で、併せて  
 傍訓情報の追加入力を行うものと  
 した。また、西本願寺本の次に取  
 り組むべき伝本としては、寛永版  
 本よりむしろ広瀬本が有力である

との意見が大きくなった。それに  
 伴い、開発研究環境の高度化を図  
 りマルチメディア化への対応を目  
 指しつつ、各伝本の電子映像化の  
 試行の一環として、昨年度の寛永  
 版本に続き、広瀬本の検索機能付  
 きモノクロCDを発売・作成した。  
 その評価実験を行い、国文学文献  
 のCD化が、従来のマイクロフィ  
 ルム等に比しても資料利用の面で  
 有効であるとの結論を得た。

\*

研究開発室(客員部門)の藤原  
 鎮男客員教授は三月三十一日付で  
 退任され、日英対応国文学研究語  
 彙試験リストの厳密に整えられた  
 ファイルを残された。「国文学研究  
 支援二ヶ国語用語知識ベース開発」  
 の構想を継承することはわれわれ  
 の課題である。

六年度末に和光大学文学部講  
 師として転出した情報分析室小川  
 増彦助手の後任に、四月一日付で  
 九州大学文学部から入口敦志助手  
 が着任した。また、文部省の中核  
 的研究機関支援プログラムに基づ  
 き、五月一日付で杉田まゆ子講師  
 (中核的研究機関研究員)が着任、  
 古典文学フルテキストデータベース  
 構築のプロジェクトに従事して  
 いる。  
 (研究情報部長)

## 文献資料部事業報告

岡 雅彦

平成八年度の調査収集事業は、

五月十四日の収集計画委員会の議を経て、六月四日の調査員会議（総会）で具体的打合せを行ない、既に作業はかなり進捗している。

その総会では、谷協理史客員教授の講演「自主規制とカムフラージュー仮名草子から西鶴へ」があったほか、「私の調査カード」のテーマでのシンポジウム（パネリスト 兼築信行早稲田大学文学部助教授、高木元愛知県立大学文学部助教授、山崎誠当館助教授、司会落合博志当館助教授）を行い、調査カードのあり方について活発な意見の交換が行われた。

当館の調査収集事業は調査員の方々のご協力を得て、年間目標調査七千点以上、収集五千点以上を目指して行われ、現在調査二十二万点、収集十四万五千点に及んでいる。現在当館では、当館の調査収集したフィルムを活用すべく、毎年四、五件の共同研究を公募で行っているが、一層の充実が望まれる。

平成七年度国文学文献資料調査・

## 収集の概況

## 一、調査

平成七年度は、本年三月末までに一三七箇所の所蔵資料七九〇七点を調査した。

北海道・東北地区（順不同、敬称略一部省略。以下同じ）

市立函館図書館・伊達市開拓記念館・八戸市立図書館・弘前市立図書館・盛岡市中央公民館・宮城県図書館・東北大学付属図書館（狩野文庫）・仙台市民図書館・仙台市博物館・酒田市立光丘文庫・致道博物館・米沢市立米沢図書館・福島県立図書館（財）福島県文化センター・福島県歴史資料館・初瀬川文庫・三春町歴史資料館・

## 関東地区

茨城県立歴史館・茨城大学付属図書館（財）水府明徳会彰考館・筑波大学附属図書館・流通経済大学附属図書館（祭魚洞文庫）・館林市立図書館（秋元文庫）・国立歴史民俗博物館・埼玉県立文書館・観世文庫・早稲田大学図書館・早稲田大学坪内博士記念館演劇博物館・東京芸術大学附属図書館・東

京芸術大学附属図書館（脇本文庫）・明治大学附属図書館（毛利文庫黒川本）・お茶の水図書館・三井文庫・東京大学文学部国文学研究室・東洋文庫・東京都立中央図書館（東京誌料）・尊経閣文庫・石野家・東京都立大学国語国文学研究室・横浜開港資料館・大曽根章介邸

## 中部地区

新潟大学附属図書館（佐野文庫）・糸魚川市歴史民俗資料館・黒船館・新発田市立図書館・黒川村立公民館・金沢大学附属図書館・福

井市立図書館（松平文庫）・小浜市立図書館・山梨県立図書館・長野

県短期大学附属図書館・上田市立

図書館（花月文庫）・柏屋別荘・市

立小諸図書館・諏訪市図書館・静

岡市立芹沢銈介美術館・静岡市立

中央図書館・浜松市立賀茂真淵記

念館・三島市郷土館勝俣文庫・名

古屋大学附属図書館（岡谷文庫）・

名古屋大学附属図書館・名古屋博物館・名古屋市鶴舞中央図書館・愛

知県立大学附属図書館・中京大学

図書館・大須文庫・西尾市教育委

員会（西尾市岩瀬文庫）・神宮文

庫・尾鷲市立中央公民館郷土室・

近畿地区

夢望庵文庫・京都府立総合資料

館・京都大学附属図書館（平松家

本）・京都大学文学部（頼原文庫）・

立命館大学附属図書館（西園寺文

庫）・陽明文庫・陽明文庫（特殊

本）・麓庵文庫・百々御所文庫・京

都国立博物館・今日庵茶道資料

館・瑞光寺・本能寺・佛教大学附

属図書館・園部町教育委員会（小出

文庫）・奈良女子大学附属図書館・

天理大学附属天理図書館・郡山城

史跡柳沢文庫保存会・大阪天満宮

御文庫・南方熊楠邸保存顕彰会・

神戸女子大学附属図書館

中国・四国地区

鳥取県立図書館・鳥取県立博物

館・田原神社・壳豆神社・津和

野町立郷土館・太鼓谷稲成神社・

岡山大学附属図書館（池田文庫）・

ノートルダム清心女子大学附属図

書館・正宗文庫・広島大学附属図

書館・広島市立中央図書館・光藤

益子・三原市立図書館・専徳寺・

山口大学附属図書館（棲息堂文

庫）・岩国徴古館・西門寺・萩市立

図書館・鎌田共済会図書館・総本

山善通寺・丸亀市立図書館・今治

市河野美術館・宇和島市立伊達博

物館・大洲市立図書館・八幡浜市

民図書館・徳島県立図書館（森文

庫）・丈六寺・高知県立図書館（山

内文庫）・佐川町立青山文庫

## 九州地区

久留米市民図書館・柳川古文書館・祐徳稲荷神社(中川文庫)・長崎大学附属図書館・長崎県立長崎図書館・島原図書館(松平文庫)・松浦史料博物館・長崎県立対馬歴史民俗資料館・熊本市立図書館・大分県立大分図書館・臼杵市立臼杵図書館・杵築市立図書館・佐伯市教育委員会・鹿児島県立図書館・琉球大学附属図書館

## 海外

州立ベルリン図書館・州立ミュンヘン図書館・フランクフルト市立芸術工芸美術館・ボン大学日本文化研究所

右は海外科研究費による調査

## 二、収集

本年三月末までに左記の五箇所の所蔵資料六九五一点を収集した。

## 北海道・東北地区

弘前市立図書館・岩手県立図書館・盛岡市中央公民館・東北大学附属図書館(狩野文庫)・仙台市民図書館・酒田市立光丘文庫・初瀬川文庫

## 関東地区

茨城県立歴史館・筑波大学附属図書館・早稲田大学図書館・東京芸術大学附属図書館・東京芸術大学

附属図書館(脇本文庫)・宮内庁書陵部・東洋文庫・尊経閣文庫

## 中部地区

新潟大学附属図書館(佐野文庫)・糸魚川市歴史民俗資料館・富山県立図書館(中島文庫)・宮崎文庫記念館・石川県立図書館(李花亭文庫)・金沢市立玉川図書館(藤本文庫)・長野県短期大学付属図書館・上田市立図書館(花月文庫)・上田市立図書館(花春文庫)・名古屋市蓬左文庫(尾崎コレクション)・名古屋大学附属図書館(神宮皇学館文庫)・愛知県立大学附属図書館・大須文庫・新城ふるさと情報館(牧野文庫)・西尾市教育委員会(西尾市岩瀬文庫)

## 近畿地区

正教蔵文庫・京都大学文学部(頼原文庫)・蘆庵文庫・陽明文庫・百々御所文庫・園部町教育委員会(小出文庫)・大和文庫・大阪女子大学附属図書館・南方熊楠邸保存顕彰会・白鹿記念酒造博物館・温泉寺

## 中国・四国地区

ノートルダム清心女子大学附属図書館・三原市立図書館・岩国徴古館・益田家・鎌田共済会図書館・総本山善通寺・四国大学附属図書館(愛符文庫)・高知県立図書館(山内文庫)

## 九州地区

祐徳稲荷神社(中川文庫等)・長崎大学附属図書館・臼杵市立臼杵図書館・杵築市立図書館

## 海外

カリフォルニア大学バークレイ校平成八年度調査収集計画

本年度は、調査一七箇所(海外を含む)九四四〇点、収集五五箇所(同)五八八〇点を目標として、既に調査収集を進めている。その内、北海道教育大学付属図書館(札幌)を始めとする七箇所の新規調査、仙台市博物館など九箇所の新規収集が含まれている。

## 海外資料の調査・収集

本年度はドイツの州立ベルリン図書館、州立ミュンヘン図書館、及びイタリアのヴァチカン図書館等の海外科研究費による調査が予定され、カリフォルニア大学バークレイ校東アジア図書館本の収集が例年通り予定されている。

## 第四室

本年度は客員教授として早稲田大学文学部谷脇理史教授が着任した。併任助教授は、前期は金次大文学教育学部山本一助教授、後期は大阪大学文学部出原隆俊助教授。それぞれの専門分野から、文献資料部の書誌学的研究や特定研究に

参加していただいている。

## その他

調査員地区会議は、中部地区は金沢市、中国四国地区は松山市、共に十一月七日に開催を予定している。

特定研究「古典籍研究の新しい課題と研究方法の開発を目指す総合的研究」は五年計画の二年次を迎えた。

本年度は人事異動があった。第二室樹下文隆助教授が広島女子大学国際文化学部助教授として転出、後任として法政大学第二教養部から落合博志助教授が着任した。また昨年度文部省の「中核的研究機関支援プログラム」にもとづき着任した藤沢毅講師(非常勤)が退任し、後任として越後敬子講師(非常勤)が着任して「幕末明治期の国文学―幕末明治期文学史のために―」プロジェクトに参加している。また文部省の新らしい支援プログラムにもとづき菊池庸介君(学習院大学大学院在籍)がリサーチアシスタントとして七月から前記研究プロジェクトに参加している。『調査研究報告』第十七号が三月三十一日付で刊行された。

(文献資料部長)

## 整理閲覧部事業報告

## 大西廣

平成七年度の当部の業務(資料の受入、整理、保存、利用サービス及び参考業務、公開講演会の開催、展示等)は、次のとおりであった。

人事異動では、四月一日付で情報サービス室長に野澤稔(富山医科薬科大学教務部図書課長から)、参考室長にロバート・キャンベル(助教授、九州大学文学部講師から)が着任した。

九月末にウィーン(オーストリア国立図書館)で開かれた第六回日本資料専門家欧州協会会議に私大西廣と野澤サービス室長が参加し、大西が当館の古典籍総合目録作成事業についての報告を行った。

当館からこの会議への参加は初めてであり、今後も継続的に参加し、海外の日本資料所蔵機関、研究者との交流を図っていきたい。

## (一) 情報サービス室

## (1) 資料の受入

資料受入数は、マイクロ資料(ロールフィルム二、七四一リール、マイクロフィッシュ九、三九一枚、

紙焼写真本一、四九二冊)、図書(三、九九六冊)、逐次刊行物(四、三二一巻号冊)であった。

その結果、平成七年度末での全蔵書数は、別表のとおりとなった。

## (2) マイクロ資料の整理

【国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録一九九五年】を刊行した。

収録書目数は、五、二二二点(二八文庫)である。これにより、累積書目数は一四九、二二九点に達した。

## (3) 図書資料の整理

二、七九二冊の図書(和古書を含む)を整理するとともに、学術情報センター目録システムを利用している活字本・影印本の題及入力作業を継続し、一〇、四三八冊を入力した。また、『国文学研究資料館蔵和古書目録増加6(一九九五)』を刊行した。

## (4) 逐次刊行物の整理等

新規受入れの一五二誌の書誌データ等を作成し、合計三、八二四誌収録の『国文学研究資料館蔵逐次刊行物一九九六年』を編集、刊

行した。また、二七一冊の製本を実施した。

## (5) 古典作品典拠ファイル作成事業

読みの付与、著者コントロール作業等を継続し、約三三、〇〇〇件のデータを作成した。累計で約三八三、〇〇〇件となった。

## (6) 古典籍総合目録作成事業

データ作成では、データベース(所蔵目録)からデータシートへの転記作業を約二、一〇〇件行い、これまで累積した転記済みデータの中から約一八、〇〇〇件を点検し、パンチした。同時に典拠コントロール作業を行い、約九、〇〇〇件の書誌データのコントロールを完了した。また、作成の対象となるデータベースの調査を進めた。

## (7) 閲覧業務

年間開室日数は、二二五日、来館利用者数は、九、五三四人(一日平均四二人)、新規登録者は、二、一〇九人(一日平均九人)で、登録者の累計は、三四、九三一人に達した。閉架資料の閲覧点数は、二四、八六八点(一日平均二二一点)であった。文献複写は、二九、六五〇件(一日平均二三二件)で、電子複写(含むリーダープリンター)二四九、八五〇枚、紙焼写真

一九、二二五枚、ポジフィルム二、八五五コマを作製した。

また、相互利用(郵送による文献複写・貸出)の複写受付は、一、九六〇件で、大学図書館等への資料の貸出は、二八件二二冊であった。

## (8) 資料の保存

当館所蔵原本(写本・版本)のマイクロ化事業は、約一三、〇〇〇コマ、二九八点の撮影を実施した。保存用ネガフィルムの外部保管委託は、平成五年度収集分一、二六七リールを追加委託し、総計二四、七七〇リールとなった。

また、七四個の帙作成を行うとともに和古書八点の補修を行った。なお、例年どおり、四月末から五月初めにかけて資料のくん蒸、三月末には蔵書点検を実施した。

## (二) 参考室

春期の特別展・公開講演会は、杉浦俊介氏から御寄贈いただいた「杉浦梅潭文庫」をもとに、その紹介と顕彰の意義を込めて「杉浦梅潭と幕末・明治の漢詩人たち」のテーマにより開催した。

また、七月には、同じ品川区内にある当館と品川歴史館(児玉幸多館長)の学問的交流として、両館共催による展示・講演会が初め



て実現した。展示は「商売繁盛」、公開講演会は「文学と歴史からみた近世の町人群像」のテーマで開催した。今後も様々な形で、地域との交流・協力を深めていきたいと考えている。なお、例年実施している夏期公開講演会はこれに代えることとした。

### (1) 参考業務

日常業務として、参考質問の受付・回答に従事し、参考図書の実と二階閲覧室の参考開架図書の維持・管理にあたった。

### (2) 公開講演会

国文学の普及業務として、次のとおり公開講演会を開催した。

・第42回（5月19日、当館）

「杉浦梅潭と咸臨丸」田口英爾（伝記作家）、「廻浦と開拓—維新前後北海道の史料事情—」鈴江英一（史料館教授）、「杉浦梅潭をめぐる文人たち」宮崎修多（成城大学助教授）

・品川区との共催による公開講演会「文学と歴史からみた近世の町人群像」（7月8、15、22、29、品川歴史館）

「本屋商売」今田洋三（近畿大学教授）、「書画会と江戸文学」ロバート・キャンベル（参考室

長）、「歴史からみる江戸の商人像」、林玲子（江戸東京博物館研究員）、「江戸小咄と商人」岡雅彦（文献資料部長）

・第43回（10月21日、高知会館）

「高知見聞録」抄 佐竹昭廣（当館館長）、「宮崎夢柳と『鬼歌』」谷川恵一（高知大学助教授）、「紀貫之と『土佐日記』」渡邊輝道（高知大学教授）

### (3) 展示

特別展示、常設展示は、次のとおりであった。

### ○特別展示

・春期特別展「杉浦梅潭と幕末・明治の漢詩人たち」（5月15日～26日）

### ○常設展示

・第61回「和書のさまざま」（6月12日～9月8日）  
・第62回「追善の本」（9月25日～12月22日）

・第63回「名所と文学」（1月16日～4月26日）

○品川区との共催による特別展示「商売繁盛」（7月1日～30日、品川歴史館）

（整理閲覧部長）

## 別表

### 所蔵資料統計

（平成8年3月末現在）

資料種別		点数	冊（リール）数
マイクロ資料	マイクロフィルム	130,692点	28,452リール
	マイクロフィッシュ	15,229点	52,987枚
	紙焼写真本		60,566冊
図書（古書及び新刊書）		35,133点	94,736冊
逐次刊行物		3,824誌	124,455冊
寄託資料		964点	4,313冊



## 原本テキストデータベース事業始動

データベース室長 中 村 康 夫

当館が文部省に対して平成七年に要求した概算要求のうち、二つの項目に対して事業費が付いた。そのうちの一つが原本テキストデータベース事業である。

言うまでもなく、世の中一般における情報機器の普及は目を見張るものがあり、人文科学の研究の分野においてもコンピュータの利用は急速に進んでいる。そういう客観的情勢にあつて、当館のようなCOE (CENTER OF EXCELLENCE) 中核的研究機関としての使命を負う研究機関では、旧来からの研究方法に対する新しい角度からのテコ入れや、情報処理の手法による新しい研究への支援など、果たすべき役割が爆発的に拡大している。そういう社会情勢に鑑み、国文学研究の発展のためのみならず、あらゆる人文科学研究の基盤整備という観点からも、古典作品本文のデータベース提供に取り組むことは、今や急務と言ふべきである。

この原本テキストデータベース

事業は、原本を底本にしてフルテキストのデータベースを作製し、確実なベースで提供していこうというものであり、プログラムの開発能力を持たない国文学者の手元でも、初歩的なレベルでは直ちに稼働するように、簡単な利用システムを同時に提供できるように考えていこうというものである。

一本のデータベース作製プランは、底本とする原本の策定に始まり、所蔵者との交渉、テキストレベルでの初期入力、データ監修、さらにイメージデータの作製、公開フォーマットへの変換、DTDの作成やオンラインサービスのメニュー拡充までを一サイクルとし、一サイクルに三年を要することを基本としている。そして、三年毎に一つのプロジエクトのデータベースが公開されるというのではなく、毎年、三年目にはいるプラン・二年目にはいるプラン・初年度が始まるプランの三つのプランが並行して進行する形とし、公開されるデータベース

は毎年一つのプラン相当のものがその順に当たることになる。

以上のことを進めるにつき、具体的な諸問題は多様に予想される。それらを偏らず豊かな視野で検討し解決していくためには、当然、相当数の館外の研究者にも加わっていただいた委員会において総合的に整えていくことが求められる。その委員会を原本テキストデータベース委員会とし、第一回の委員会は5月31日に開催された。

データベースは本来、個人レベルでは構築困難なほど大規模に情報を集積するものであり、そのために、従来はほとんどの個人は利用者に回ることになるしかなかった。しかし、この原本テキストデータベースのプロジエクトでは、比較的小さい作品など、個人で十分作成可能な規模のものは個人でデータベースを作製していただくことを基本としている。それを実現するために、館としては、データフォーマットを策定して、できるだけ早く公表する必要がある。

個々の研究者が自分に必要なデータベースを自分で作っていくのでなければ、なかなか自分の専門の作品がデータベース化されずに不

満を持つてしまう研究者が大量に発生するであろう。資料館は偏った仕事をしているとの批判が起こるだろう。できるだけ公平・平等のサービス体制を固持しなければならぬ。館としては、そういう局面は避けなければならない。

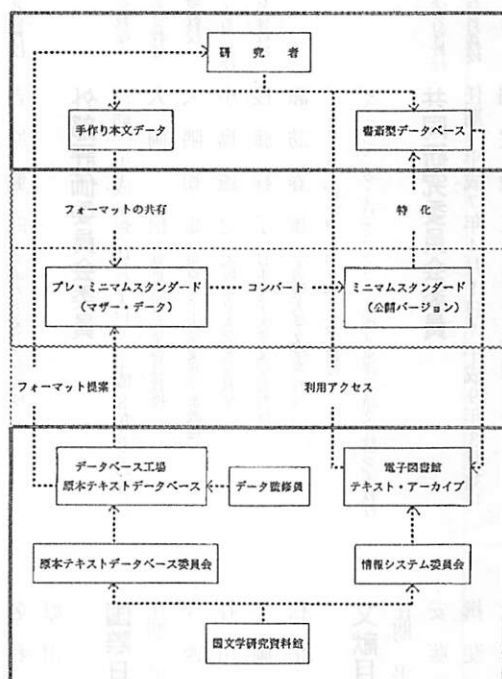
個々人の手元では、大きい作品でも、一本が公開され改造が自由となれば、コピーの上書きといった方法などで、同じ作品の他の一本のデータベースが作製しやすくなる。あちらこちらで行われている研究会などでは、グループワークとして取り組まれることも現れるに違いない。

当館から提供されるであろうデータベースは、ミニマムスタンダードとでもいふべき基本仕様を実現したものであり、そこから多様に利用されていくものである。その利用の構想は、将来的な可能性を含めて図示すると別掲の図のようになる。

個々の研究者は、資料館から提供されるデータベースと、自分(達)で作製したデータベースとを統合的に利用していくことになり、一人一人の書庫で組みあがっているデータベースは個別の目的に応じて構築されていることになるため、同じデータベースはほとんどないとい

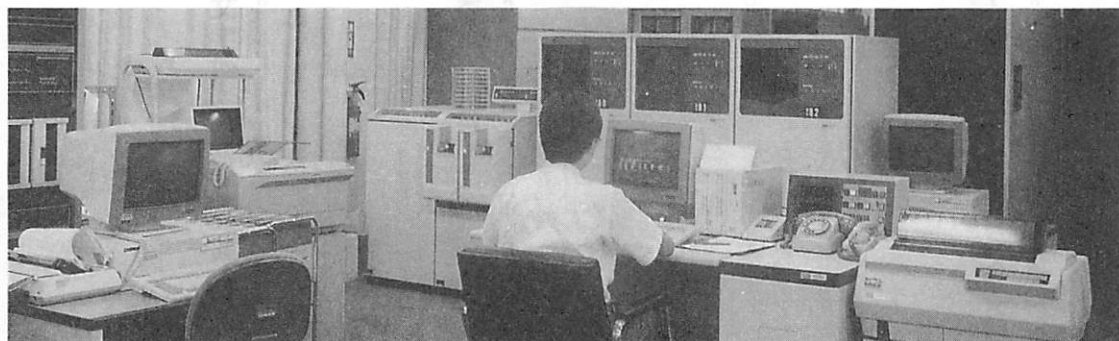
う状態になっていく。さらに、個々の研究者の手元では、メモ領域への研究情報の書き込みなどが個別に行われるなど、それぞれにデータベースが成長していくことになるであろうから、誰かが使っているデータベースを丸ごと複写するのでない限り、同じデータベースは二つと存在しなくなる。この個別の中から普遍を拾って相互利用に役立てていくという考え方も、そのうちに出てこよう。また、その個人が成長させたデータベースを、何らかの評価を経て、他の第三者への利用に供していくことは、多分そう遠からず求められることであろう。しかし、そのルートを考えることは、別途の予算獲得を考えなければならず、構想としては、予算的にも壮大な電子資料館構想とセットにならないければ、スマートには実現しないかもしれない。

### ミニマムスタンダード



っていくためには、大方の国文学者にどしどし資料館に対してアクセスしていただく必要がある。インターネットのホームページもほぼ見ていただけるものが用意できたことでもあり、館から提供できるものを確実に受けとめていただける入札物(パソコンや相互理解など硬軟両面が考えられる)を是非ご用意いただきたい。そして、こまめに資料館からの情報発信を受信していた

だきたい。  
原本テキストデータベースプロジェクトの最初のメニューは二十一代集データベースであり、二番手は秋の委員会決定される。予算が潤沢ではないために、とかく公開が遅れがちになるのが国の機関の欠点であるが、新しい胎動は確実に資料館の中で始まっているとお感じいただき、ご期待いただきたい。



## 評議員

任期 平成8年7月1日～平成10年6月30日

秋山 慶 駒沢女子大学文学部教授 東京大学名誉教授

朝尾直弘 京都府立大学文学部教授 京都大学名誉教授

阿部謹也 一橋大学長

網野善彦 神奈川大学経済学部教授

石井 進 国立歴史民俗博物館長 東京大学名誉教授

稲賀敬二 安田女子大学文学部教授 広島大学名誉教授

猪瀬 博 学術情報センター所長 東京大学名誉教授

河合 隼雄 国際日本文化研究センター所長 京都大学名誉教授

久保田 淳 白百合女子大学文学部教授 東京大学名誉教授

興膳 宏 京都大学大学院文学部助教授

佐々木 高明 国立民族学博物館長

佐野 文一郎 東京国立博物館長

竹内 美智子 共立女子短期大学教授

田中 彰 札幌学院大学経済学部教授 北海道大学名誉教授

堤 精二 放送大学・国際園芸長 星の大学名誉教授

濱田 啓介 花園大学文学部教授 京都大学名誉教授

尾藤 正英 川村学園女子大学文学部教授 東京大学名誉教授

平岡 敏夫 群馬県立女子大学長 筑波大学名誉教授

水谷 修 国立園芸研究所長

吉川 弘之 東京大学長

## 運営協議員

任期 平成8年8月1日～平成10年7月31日

(鑑外)

有吉 保 日本女子大学文学部教授

岩佐 美代子 鶴見女子大学文学部教授

大口 勇次郎 お茶の水女子大学文学部教授

久保木 哲夫 都留文科大学長

初尾 武 成城女子大学文学部教授

延廣 眞治 東京女子大学文学部文化研究科教授

野山 嘉正 東京大学大学院人文社会系研究科教授

日野 龍夫 京都大学文学部教授

藤井 譲治 京都大学文学部教授

吉原 健一郎 成城大学文学部教授

## 外部評価委員会委員

任期 平成7年10月1日～平成8年9月30日

大岡 信 東京芸術大学客員教授

大隅 和雄 東京女子大学文学部助教授

小島 憲之 大阪府立大学名誉教授

後藤 祥子 日本女子大学文学部教授

諏訪 春雄 学習院大学文学部教授

ジャクリス・ビジョーバリー 第7大学教授

ジャン・ジャック・オウガス フランス国立東洋言語文化研究所教授

共同研究委員会委員

任期 平成7年4月1日～平成9年3月31日

稲賀 敬二 安田女子大学文学部教授

中野 三敏 九州大学文学部教授

野村 精一 実践女子大学文学部教授

松浦 友久 早稲田大学文学部教授

松尾 華江 相山女子大学人間関係学部教授

三木 紀人 お茶の水女子大学大学院人文科学研究科教授

## 国文学文献資料収集計画委員会委員

任期 平成7年4月1日～平成9年3月31日

黒田 日出男 東京大学史料編纂所所長兼顧問教授

杉谷 寿郎 日本大学文学部教授

田口 和夫 文教大学文学部教授

中野 幸一 早稲田大学文学部教授

水田 紀久

任期 平成8年4月1日～平成10年3月31日

綾村 宏 奈良国立文化財研究所研究員

岡本 勝 愛知教育大学教員学部教授

佐藤 恒雄 香川大学教育学部教授

名和 修 (財) 昭明文庫館長

原田 貞義 東北大学大学院国際文化研究科教授

## 国際日本文学研究会委員会委員

任期 平成8年4月1日～平成10年3月31日

今西 裕一郎 九州大学文学部助教授

谷川 恵一 高知大学文学部助教授

平岡 敏夫 群馬県立女子大学長

松平 進 甲南女子大学文学部教授

## 文献目録委員会委員

任期 平成8年4月1日～平成10年3月31日

安藤 修平 富山大学教育学部教授

揖斐 高 成蹊大学文学部教授

遠藤 宏 成蹊大学文学部教授

菊地 仁 山形大学文学部教授

木越 治 金沢大学文学部助教授

後藤 祥子 日本女子大学文学部教授

鈴木 日出男 東京大学大学院人文社会系研究科教授

高橋 博史 白百合女子大学文学部助教授

野山 嘉正 東京女子大学大学院人文社会系研究科教授

前田 雅之 東京女子短期大学教授

松村 友規 慶應義塾大学文学部助教授

安田 尚道 青山学院女子文学部教授

## 原本テキストデータベース委員会委員

任期 平成8年5月16日～平成10年3月31日

青木 周平 国学院大学文学部教授

今西 裕一郎 九州大学文学部助教授

## 情報システム委員会委員

任期 平成8年4月1日～平成10年3月31日

岩下 武彦 中央大学文学部教授  
後藤 祥子 日本女子大学文学部教授  
佐藤 恒雄 香川大学教育学部教授  
沢井 耐三 愛知大学文学部教授  
中山 右尚 鹿児島大学教育学部教授

石塚 英弘 国書院情報大学図書館学部長

稲岡 耕二 上智大学文学部教授

井上 如 学術情報センター教授

杉田 繁治 国立民族学博物館第5研究部教授

照井 武彦 国立歴史民俗博物館情報資料研究部教授

長崎 建 中央大学文学部教授

永村 眞 日本女子大学文学部教授

中山 雅哉 東京女子大学情報センター助教

星野 聡

村上 正志 国立国会図書館情報部情報処理課長

村上 學 名古屋大学文学部教授

## 古典籍総合目録委員会委員

任期 平成7年4月1日～平成9年3月31日

加美 宏 同志社大学文学部教授

小室 明 国立国会図書館図書部古籍課長

近藤 禮雄 東京大学附属図書館庶務課長

柴田 光彦 駒澤大学文学部教授

堤 精二 放送大学教授

益田 宗 国立歴史民俗博物館庶務研究部教授

## 国文学文献資料調査員

任期 平成8年4月1日～平成9年3月31日

〔北海道・東北地区〕

石川 秀巳 東北大学大学院国際文化研究科助教

加藤 幸一 奥羽大学文学部助教

佐藤 晃 山形大学文学部助教

杉浦 清志 北海道教育大学教育学部助教授

竹下 香織 山形大学文学部助教

永田 信也 北海道教育大学教育学部旭川校助教

原田 貞義 東北大学大学院国際文化研究科教授

播磨 光寿 国学院大学文学部教授

松本 真奈美 尚美学園大学文学部助教

宮澤 照恵 北星学院大学文学部助教

山本 陽史 山形大学教育学部助教

〔関東地区〕

浅田 徹 立教大学文学部カリキュラム開発センター非常勤講師

井上 泰至 防衛大学校人文科学教室助教

兼築 信行 早稲田大学文学部助教

紙 宏行 文教大学文学部助教

杉下 元明 東京家政学院大学非常勤講師

鈴木 健一 茨城大学文学部助教

高橋 啓之 文部省初等中等教育局教科書調査官

田中 大士 東京成徳大学文学部助教

藤田 洋治 東京成徳大学文学部助教

山下 琢巳 東京成徳大学文学部助教

山本 和加子 実践女子大学文学部非常勤講師

湯浅 佳子 東京女子大学教育学部助手

## 〔中部地区〕

石坂 妙子 新潟大学教育学部助教

大島 信生 皇學館大学文学部講師

神作 研一 金沢学院大学文学部講師

木越 治 金沢大学文学部助教

黒田 彰 愛知学院大学文学部助教

小林 一彦 洗足学院大学文学部助教

鈴木 孝庸 新潟大学文学部助教

高木 元 愛知学院大学文学部助教

高橋 明彦 金沢美術工芸大学美術工芸学部講師

田中 康二 富山大学文学部助教

玉城 司 清泉学院短期大学幼児教育資料科教授

戸谷 精三 長野工業高等専門学校教授

西村 聡 金沢大学文学部助教

西山 秀人 上田大学文学部講師

服部 仁 同朋大学文学部教授

深津 睦夫 皇學館大学文学部助教

安田 徳子 聖徳学園短期大学教育学部教授

柳澤 良一 金沢学院大学文学部教授

吉川 洋介 愛知学院大学文学部助教

綿拔 豊昭 富山大学文学部助教

〔近畿地区〕

安達 敬子 京都府立大学文学部助教

大谷 俊太 南山大学文学部助教

日下 幸男 大阪市立淀川商業高等学校教諭

塩崎 俊彦 神戸山手大学文学部助教

田淵 美子 大阪国際大学文学部助教

中西 健治 相愛大学文学部教授

野口 隆 大阪学院大学経済学部講師

福田 安典 甲子園短期大学講師

藤田 眞一 京都府立大学文学部教授

藤平 泉 神戸大学文学部助教

藤原 英城 京都府立大学文学部講師

三村 晃功 光華大学文学部教授

## 〔中国・四国地区〕

會田 実 四国大学短期大学部助教

蘆田 耕一 鳥取大学文学部教授

飯倉 洋一 山口大学文学部助教

石川 一 広島大学国際文化学部教授

久保田 啓一 広島大学文学部助教

## 国文学研究情報研究専門員

任期 平成8年4月1日～平成9年3月31日

鳥田大助	山陽女子短期大学非常勤講師
妹尾好信	広島大学文学部助教授
田中則雄	島根大学文学部助教授
田村憲治	愛媛大学文学部助教授
長谷川泰志	広島経済大学経済学部助教授
原水民樹	徳島大学農学部助教授
藤澤毅	広島文教大学文学部助教授
松原秀明	金刀比羅宮図書館嘱託
〔九州地区〕	
井上敏幸	福岡女子大学文学部助教授
今井明	福岡女子大学文学部助教授
大胡太郎	琉球大学文学部助教授
辛島正雄	九州大学文学部助教授
黒木香	活水女子大学文学部助教授
園田豊	北九州大学文学部助教授
高橋昌彦	純真女子短期大学助教授
山田洋嗣	福岡大学文学部助教授
青柳隆志	東京成徳短期大学国文学助教授
浅田徹	立教大学文学部カレッジ・ユースセンター非常勤講師
安藤宏	上智大学文学部助教授
小川靖彦	和光大学文学部助教授
蒲原義明	神奈川県立第一高等学校教諭
小池一行	宮内庁書陵部図書研究官
佐々木孝浩	慶應義塾大学附属研究所道文庫助手
鈴木豊	文京女子短期大学助教授
竹本幹夫	早稲田大学文学部助教授
谷口孝介	筑波大学文学部助教授
寺井正憲	千葉大学教育学部助教授
宮崎修多	成城大学文学部助教授

## 共同研究員

任期 平成8年4月1日～平成9年3月31日

山口明穂	中央大学文学部教授
共同研究員	
課題名〔稲荷大社蔵「諸社功能」の注釈的研究〕	
阿部泰郎	名古屋大学文学部助教授
小峯和明	立教大学文学部助教授
吉原浩人	早稲田大学第一文学部助教授
課題名〔歌舞伎番付の研究〕	
赤間亮	立命館大学文学部助教授
池山晃	大東文化大学文学部助教授
神楽岡幼子	早稲田大学演劇博物館助手
土田衛	
水田かや乃	園田学園女子大学近世研究助教授
課題名〔近世後期西国藩儒の学問と生涯―「牧園茅山日記」の研究―〕	
井上敏幸	福岡女子大学文学部助教授
白石良夫	文部省初等中等教育局教科書調査官
高橋昌彦	純真女子短期大学助教授
宮崎修多	成城大学文学部助教授
安永美恵	筑紫女学院短期大学助教授
課題名〔正教蔵文庫の調査研究〕	
阿部泰郎	名古屋大学文学部助教授
樹下文隆	広島大学国際文化助教授
黒木彰	愛知県立大学文学部助教授
小林健二	大谷大学文学部助教授
田中貴子	梅花女子大学文学部助教授
廣田哲通	大阪女子大学文学部助教授
課題名〔源氏大鏡―類本文の比較と研究〕	
安達敬子	京都府立女子短期大学助教授
倉田実	大妻女子短期大学助教授
田坂憲二	福岡女子大学文学部助教授
渡辺久寿	山梨英和短期大学教授

## 第20回国際日本文学研究集会

日時 平成8年11月7日(木)・8日(金)

会場 国文学研究資料館 一階大会議室

申込 当日受付可。

参加費 一〇〇〇円。公開講演のみ聴講の方は無料。

レセプション参加の方は三〇〇〇円を追加。

十一月七日(木)

研究発表(二時)

○「とはすかたり」の夢―執着心を超える女としての二

条― 金粉淑

○和泉式部恋愛詩歌の特徴―健国の女流詩人

黄真伊との比較を通して― 南二淑

○「日本書紀」と古代日本文学 リュドミラ・エルマコワ

○「新古今和歌集」における本歌取りの面白い方

レイン・ラウド

○鬼娘の系譜―黄表紙を中心に― アダム・カバット

○「招待発表」谷崎潤一郎「少将滋幹の母」

にあられる平安時代のイメージ

ジャッククリス・ビジョー

レセプション(五時半)

十一月八日(金)

研究発表(十時半)

○「琴の音」の構想と世界 林 嵐

○森鷗外「キタ・セクスアリス」の哲学

マリヤ・デブラリウィセンテ

○横光利一と結核 張建明

公開講演(二時半)

○平安時代貴族社会における作文

フランシス・エライユ

○王朝の「夕暮れ」―芥川龍之介「羅生門」を視点として

平岡敏夫

## ホームページの開設

インターネット／ワールドワイドウェブ(ウェブ)の言葉が国文学者を賑わして久しくなるであろう。当館も遅ればせながらホームページ開設(仮運用)までこぎ着けた。言葉を尽して説明するよりも近くのウェブブラウザ(neoscape, internet explorer, mosaic など)で当館ホームページの番地 <http://www.nijl.ac.jp> を覗いて頂いた方が一目瞭然であるが、紙面上でも紹介を試みる。

ホームページの第一の目的は、利用者サービスの手段として活用することである。現在、展示・研究会など行事の案内、閲覧・DBの利用方法、出版物の紹介などを提供している。研究室や自宅にしながら自由な時間に(不都合がない限り二四時間)タイムリーな情報を得ることができる。展示物の中のいくつかの写真や研究会の会場の様子を即日見ることができる。利用案内や申請書などの書類や講演集もファイル転送で入手可能である。近い将来、バーチャル展示を経験したり、研究会をリアルタイムで見たり討論に参加したりすることも夢ではない。また他の関連する機関のホームページや(当館をはじめ他の図書館の)OPACへ接続

できる一覽を用意している。インターネットならではの利用者同士やスタッフとの情報交換も提供している。

もう一つの目的は、電子資料館を目指した各種実験である。研究資料の電子化に伴いコンピュータとインターネットを活用した研究資料の提供、利用環境の研究実験を行っている。ウェブは、インターネットを介してマルチメディア情報を(両方向に)発信するのにすこぶる便利な道具である。さらに計算機の種類を問わずウェブブラウザ(人手容易かつ廉価があれば参加できるので、国文学者にも好適な環境と言える。現在、種々なメディアのデータベースの検索技術やその提供方法を試行している。今後のテーマは、連想検索、検索ナビゲータなどのデータベースの垣根を越えた検索手法、遠隔地間での共同研究、ネットワーク上での辞書などの共同構築、国文学者に優しいインタフェースの研究など。さらには全国調査、情報整理、データベース化のプロセス自身のインターネットを利用した効率化などにも取り組むたい。

積極的な参加を期待している。  
御意見、問い合わせは  
skm@niji.ac.jp  
までメールで。

(情報メディア室 丸山勝巳)

(情報処理室 北村啓子)

## 文庫紹介②

## 総本山善通寺

弘法大師の開創と伝える善通寺(香川県善通寺市)は、大師誕生の聖地として古来名高く、西行も四国の旅の途次しばらく滞在している。平安時代には東寺、中世以降は長く小野随心院の末寺であったが、昭和十六年に真言宗善通寺派総本山となった。国文学研究資料館では、善通寺の進生善隆前管長・高吉清順現管長両現下を始めとする各位の御高配と、金刀比羅宮図書館の松原秀明氏の御協力を賜り、中国・四国の調査員に、文献資料部から小峯和明氏に加わり、平成元年度より調査を開始した。本年までに約百箱のカード採取を終了したが、なおそれに近い数の箱が残っており、完了にはしばらく時間を要する見込みである。

善通寺には完備した目録がないため、蔵書の全容については未だ十分な把握に至っていない。一応現在までの調査結果に基づいて概要を述べると、年代的には江戸時代の写本・版本が大半で、若干の室町時代写本を混え、ごく稀に鎌倉・南北朝時代の写本を見出す、

という所である。これらは権別当であつた誕生院を含む善通寺本来の蔵書に、象頭山金光院(金毘羅大権現別当寺)など他寺所蔵本を漸次加えつつ形成されたようである。近世以前の本が少ないのは、善通寺が永禄元年に兵火で焼失したためらしく、時折混る古写本も後代に移入されたものと推定される。眼目と言うべきは三宝院流・安祥寺流など真言宗の聖教類で、書写は比較的新しいものの内容は充実しており、国文学の研究に有用な資料も少なくない(既に小峯和明氏により「諸流物語」の紹介がある)。その他基本的な教学関係の書物は全般によく揃っており、近世和歌や漢詩文集のような国文学書も少数ながら蔵されている。

前述の通り調査はようやく半ばを過ぎた段階で、今後の進展に期待される点も多い。また撮影も平成四年度から開始しており、順次閲覧に供される予定である。

(文献資料部 落合博志)

## 彙報

## 委員会日誌

平成8年

4月18日

情報システム仕様策

4月23日

定委員会

4月23日

外部評価委員会

(第二回)

5月7日

企画委員会

5月10日

情報システム委員会

5月14日

国文学文献資料収集

5月14日

計画委員会(第一回)

6月4日

国文学文献資料調査

6月14日

員会議総会

6月25日

外部評価委員会

(第二回)

7月18日

文献目録委員会

8月8日

国際日本文学研究集

会委員会(第一回)

運営協議委員会の開催について

本年度第一回運営協議委員会が平

成八年六月二十六日(水)に開催さ

れ、議事は、管理運営の概況、平成七

年度事業報告、及び平成九年度概算

要求について協議が行われた。

評議員会の開催について

本年度第一回評議員会が平成八

年七月十六日(火)に開催され、議事

は、国文学研究資料館長の選考、管

理運営の概況、平成七年度事業報告

及び平成九年度概算要求について

評議員会の開催について

本年度第一回評議員会が平成八

年七月十六日(火)に開催され、議事

は、国文学研究資料館長の選考、管

理運営の概況、平成七年度事業報告

及び平成九年度概算要求について

評議が行われた。

外国出張

山崎 誠

渡航先

アメリカ合衆国

目的

第48回アジア学協会

研究会参加

期 間

平成8年4月10日、

平成8年4月16日

丸山 勝巳

原 正一郎

渡航先

アメリカ合衆国

目的

国文学データベース

の学術情報網による

国際共同利用に関す

る研究

期 間

平成8年5月16日、

平成8年5月21日

高木 俊輔

安藤 正人

原 正一郎

入口 敦志

渡航先

ドイツ連邦共和国

目的

ノルウェー

ベルギー

目的

国文学データベース

の学術情報網による

国際共同利用に関す

る研究

期 間

平成8年6月23日、

平成8年7月7日

山崎 誠

落合 博志

和田 恭幸

中野 真麻理

渡航先

ドイツ連邦共和国

イタリア共和国

目的

バチカン司教国

欧州における日本古

典籍研究の歴史的研

究

期 間

平成8年9月1日、

平成8年9月17日

渡航先

中華人民共和国

目的

北京大学蔵日本古典

籍の調査と日中書誌

学の比較研究

期 間

平成8年7月20日、

平成8年8月20日

青木 睦

渡航先

中華人民共和国

目的

史料保存・ブレスト

「史料の修復・伝

統から最新へ、古代

から現代まで」出席

期 間

平成8年8月26日、

平成8年9月2日

安藤 正人

渡航先

中華人民共和国

目的

「第8回アーキビス

ト養成国際シンポジ

ウム」ならびに「第13

回国際文書館会議」

出席

期 間

渡航先

中華人民共和国

目的

中華人民共和国

「第13回国際文書館

会議」出席

期 間

平成8年9月1日、

平成8年9月8日

渡航先

ロバート キャンベル

海外研修旅行

鈴木 淳

渡航先

連合王国

目的

海外研修旅行

鈴木 淳

海外研修旅行

鈴木 淳

鈴木 淳

鈴木 淳

鈴木 淳

鈴木 淳

鈴木 淳

鈴木 淳

鈴木 淳

鈴木 淳

鈴木 淳

鈴木 淳



渡航先 ドイツ連邦共和国

連合王国

目的 「日本資料専門家欧

州協会年次大会」出

席及び文献調査

期間 平成8年9月24日、

平成8年10月4日

## 感謝状の贈呈について

平成8年5月16日、アイルランド共和国ダブリン市のチェスタビーティ図書館での当館の調査等による便宜を図っていただいた潮田淑子氏に対して感謝の意を表すため、佐竹館長から同氏へ感謝状と記念品の贈呈を行った。

海外の国文学資料が内外の注目を浴びるようになったのは、昭和50年頃からであるが、その最大の契機となったのがチェスタビーティ図書館の所蔵する東洋美術品に関する膨大なコレクションであった。これらの資料は、チェスタビーティ卿が国に寄付したもので、この図書館において日本関係の所蔵品整理などに当たったのが同氏で、当館の研究者も業務、研究において訪問した際、公私にわたってお世話になった。

## 原典購読セミナー

当館では、平成五年より「原典購読セミナー」を開講している。

本年は十五名の大学院生を迎え、八月二十六日(月)から三〇日(金)まで、六名の教授・助教授による講義が行われた。酷暑の中で一日、四講義を連続して聴講するのは、参加者にとつて厳しいスケジュールであったと思われるが、一人の落伍者もなく無事終了した。

セミナー終了後にもたれた茶話会では、受講生からの謝辞と今後の期待が述べられたことが印象的であった。

本年の講義題目は次のとおりである。

○日本漢籍史入門―「長恨歌」の注釈と絵画化をめぐる(文献資料部山崎盛)

○平安末期の私撰和歌集―言葉と歌集を読む―(企画調整官松野陽二)

○大名屋敷の歌舞伎上演―「弘前藩庁日記」を読む―(研究情報部武井協三)

○本居宣長の大和紀行―菅笠日記を読む―(文献資料部鈴木淳)

○「夜明け前」の世界―「大黒屋日記」を読む(史料館高木俊輔)

○デジタル・ワード―国文学研究のためのコンピュータ・リテラシー(研究情報部原正一郎)

なお、セミナーの講義については、平凡社から「セミナー原典を読む」が刊行されている。既刊分は次のとおり。

『浮世風呂・浮世床―世間話の文学』―本田康雄著

『書の秘伝―入木道の古典を読む』―新井榮蔵著

『千載集―勅撰和歌集はどう編まれたか』―松野陽二著

『古文書が語る近世村人の一生』―森安彦著

『蚕の村の洋行日記―上州蚕種業者・明治初年の欧羅巴体験』―丑木幸男著

『百人一首―定家とカルタの文学史』―松村雄二著

『一休はなし―とんち小僧の来歴』―岡雅彦著

『文化系のための情報検索入門―パソコンで「漱石」にたどりつく』―安水尚志著

『京都学の古典『雍州府志』』―立川美彦著

定価は各二千円(文化系のための情報検索入門のみ千六百円)。市販されている。



## 利用者へのお知らせ

◆彦根市立図書館（琴堂文庫）の名称及びサービス区分変更について

このたび、彦根市立図書館（琴堂文庫）の名称が彦根城博物館（琴堂文庫）となりました。これは、

琴堂文庫が、彦根市立図書館から彦根城博物館に移管されたことによるものです。これに伴いマイク

ロ資料のサービス区分がA（複写可）からC（要事前許可）に変更

されました。複写を希望する場合は、彦根城博物館に許可願を提出することになります。許可願は当館から出しますので申し出ください。

なお、これに該当する琴堂文庫の資料は『マイクロ資料目録一九八六年』（第10冊）、『同（一九八八年）』（第12冊）及び『同（一九八九年）』（第13冊）に収録されています。文庫番号は243です。

◆新指定の特別コレクション及び貴重書指定解除について

本年三月、次のとおり新たに特別コレクションに一文庫が加わり

ました。また、貴重書のうち一点が指定を解除されました。これにより貴重書は全部で八十一、特別コレクションは五コレクションとなりました。

〈特別コレクション〉

・広瀬青邨文庫

・広瀬淡窓・青邨関係資料

〈貴重書指定解除〉

・落窪物語（刊三冊）

貴重書請求記号99/52

◆OPACのインターネット公開（試行）について

OPACは、当館で所蔵する活字本・影印本の目録データベースです。収録範囲は平成四年一月以降の受入分です。週及入力作業を進めていますので、これ以前の図書も含まれています。

このたび、インターネット経由でOPACが利用できるようになりました。利用申請手続の必要はなく、どなたでもご利用いただけます。

〈URL〉

telnet/kokubun.nij.ac.jp

〈IPアドレス〉

192.242.1.45

〈接続方法〉

端末種別を入力した後、ENTER  
USERIDに対してOPACと入力する。

〈提供時間〉

九時半～二十一時

日曜日、土曜日、祝日、振替休日、毎月末日、年末年始等は休止します。

なお、当館ホームページ（実験公開中。URLは、<http://www.nij.ac.jp>）です。からも、OPACにアクセスできます。

◆利用案内

利用資格

学術研究のために当館の資料を必要とし、かつ、次のいずれかに該当する者

(一) 学校の教員及び調査研究機関の研究員

(二) 大学及び大学院の学生

(三) その他館長が適当と認める者

閲覧時間

九時～十七時

資料請求受付時間

九時半～十二時、十三時～十六時半

OPAC利用時間

九時半～十六時半

文献複写受付時間

九時半～十五時半

休室日

日曜日、土曜日、祝日、振替休日、毎月末日（日、土の場合は直前の金曜日）、四月末～五月上旬五日間、十二月二十七日～一月五日、三月二十五日～三月三十一日、その他

来館できない場合の利用方法

所属大学の図書館等を通して申し込めば文献複写及び貸出（資料は限定されます）ができます。また、個人が郵送で文献複写の申し込みをすることができます。詳細は参考普及係にお問い合わせください。

臨時休室のお知らせ

平成九年一月六日（月）は休室します

## 人事異動 (平成8年3月～平成8年8月)

## 【教官】

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
8. 3. 31	樹下文隆 佐々木孝浩	〔辞職〕 広島女子大学国際文化部助教授 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫助手	文献資料部助教授 研究情報部助手
8. 4. 1	落合博志 江戸英雄 谷脇理史 後藤祥子 永村 眞 越後敬子 杉田まゆ子 森本祥子	〔採用〕 文献資料部助教授 研究情報部助手 文献資料部客員教授 (9.3.31まで) 研究情報部客員教授 (9.3.31まで) 史料館客員教授 (9.3.31まで) 文献資料部非常勤研究員 (9.3.31まで) 研究情報部非常勤研究員 (9.3.31まで) 史料館非常勤研究員 (9.3.31まで)	法政大学第二教養部助教授 (早稲田大学文学部助教授) (日本女子大学文学部教授) (日本女子大学文学部教授)
8. 4. 1	落合博志 山本 一 中川博夫 藏持重裕	〔併任〕 文献資料部第二文献資料室長 文献資料部助教授 (8.9.30まで) 研究情報部助教授 (9.3.31まで) 史料館助教授 (9.3.31まで)	(文献資料部助教授) (金沢大学教育学部助教授) (徳島大学総合科学部助教授) (滋賀大学経済学部助教授)
8. 5. 11	岡 雅彦	文献資料部国際研究室長	(文献資料部教授)

## 【事務系職員】

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
8. 4. 1	山口博基 三上 智 新川 恭弘 小関 仁志 三浦孝樹 高田 範夫 新藤正夫 森澤良水	〔転出〕 岐阜大学附属図書館事務部長 山梨大学会計課長 東京大学教養学部数理学研究科総務課人事掛長 東京国立文化財研究所庶務課庶務係長 東京大学生産技術研究所経理課経理掛長 東京大学経理部主計課管財係長 東京大学工学部経理課司計掛主任 文部省大臣官房福利課長	管理部庶務課長 管理部会計課長 管理部庶務課人事係長 管理部庶務課共同利用係長 管理部会計課用度係長 管理部会計課管財係長 管理部会計課総務係総務主任 管理部長
8. 4. 1	石川 護 松浦孝則 渡辺正昭 長谷佳彦 太田吉彦 小楢山克則 渡邊将敏 武川 栄一	〔転入〕 管理部庶務課長 管理部会計課長 管理部庶務課庶務係長 管理部庶務課共同利用係長 管理部会計課用度係長 管理部会計課管財係長 管理部会計課総務係総務主任 管理部長	筑波大学総務部人事課長 熊本大学経理部経理課長 国立特殊教育総合研究所運営部庶務課人事係長 東京工業大学総合理工学研究科等資源化学研究所事務掛長 東京学芸大学教育学部附属学校部会計係主任 東京大学物性研究所経理課用度掛契約主任 東京大学海洋研究所経理課海務掛主任 国立国語研究所庶務部長
8. 4. 1	長津 昭 大河史彦 岩崎光二	〔館内異動〕 管理部庶務課人事係長 管理部会計課管財係管財主任 管理部庶務課庶務係	管理部庶務課庶務係長 管理部会計課管財係 管理部会計課情報処理係
8. 7. 1	高島津雪 和田玲子 中村スミ子	整理閲覧部情報サービス室参考普及係長 (併任解除) 整理閲覧部情報サービス室参考普及係長 整理閲覧部情報サービス室受入係	(整理閲覧部情報サービス室情報サービス係長) 整理閲覧部情報サービス室受入係 整理閲覧部情報サービス室情報管理係

平成8年度

## 秋季学会

①事務局 ②学会開催日 ③会場

## 解釈学会

①〒170豊島区北大塚3-29-2 教育出版センター内 03-5394-1203 ②8月22・23日 ③宮城学院女子大学

## 歌舞伎学会

①〒169-50新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学演劇博物館内03-3203-4141内71-5218 ②11月30日・12月1日 ③明治大学

## 劇点語学会

①〒155世田谷区代沢1-20-10 ②10月18日 ③松山市立子規記念博物館

## 芸能史研究会

①〒606京都市左京区浄土寺真如町77紫雲荘6号室075-761-8718 ②12月7日 ③早稲田大学

## 計量国語学会

①〒167杉並区善福寺2 東京女子大学3号館118号室内03-3395-1211内339 ②9月28日 ③中京大学

## 国語学会

①〒113文京区本郷7-3-1 東京大学文学部国語研究室内03-3812-2111 ①事務取扱〒113 文京区本郷1-13-7 日吉ハイツ404 03-5802-0615 ②10月19・20日 ③愛媛大学

## 昭和文学会

国文学研究資料館報 第四十七号  
 平成八年九月発行  
 編集・発行者  
 国文学研究資料館  
 東京都品川区豊町一、一六、二〇  
 郵便番号 一四二  
 電話 (三七八五) 七二二一  
 FAX (三七八五) 七〇五一

①〒101千代田区猿楽町2-2-5 笠間書院内03-3295-1331 ②10月12・13日 ③盛岡大学  
全国大学国語教育学会①〒305つくば市天王台1-1-1 筑波大学教育学系人文科教育学研究室内0298-53-6732・6733 ②10月12・13日 ③茨城大学  
全国大学国語国文学会

①〒101千代田区猿楽町2-2-6畑山第1ビル(株)おうふう気付03-3294-0857 ②10月26・27日 ③新潟大学

## 中古文学会

①〒112文京区白山5-28-20 東洋大学文学部国文学研究室03-3945-7367 ②10月12・13日 ③山口県立大学

## 中世文学会

①〒175-80板橋区高島平1-9-1 大東文化大学文学部日本文学科関口研究室03-3935-1113内3127 ②10月12～14日 ③いでは文化記念館

## 日本演劇学会

①〒169-50新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学演劇博物館内03-3203-4141内71-5218 ②10月26・27日 ③熊本県立大学

## 日本音声学会

①〒101千代田区猿楽町1-3-1 03-3292-1718 ②9月28・29日 ③東京大学

## 日本歌謡学会

①〒630奈良市高畑町奈良教育大学真鍋研究室内0742-27-9153 ②10月12・13日 ③大阪教育大学

## 日本近世文学会

①〒162新宿区戸山1-24-1 早稲田大学文学部谷協理史研究室内03-3203-4141 ②10月26・27日 ③同朋大学

## 日本近代文学会

①〒171豊島区西池袋3-34-1立教大学文学部日本文学科第二研究室内03-3985-2504 ①〒113文京区駒込5-16-9学会センターC21日本学会事務センター内03-5814-5810 ②10月26・27日 ③大東文化大学  
社団法人 日本語教育学会①〒107港区赤坂1-8-10 第9興和ビル内03-3584-4872～3 ②10月5・6日 ③京都外国語大学  
日本児童文学学会

①〒474愛知県大府市横根町名高山55 中京女子大学棚橋美代子研究室内 0562-46-1291 ②10月26～28日 ③市邨学園短期大学

## 日本社会文学会

①〒603京都市北区小山上総町大谷大学文学部片岡了研究室 075-432-3131 ②11月1～3日 ③熊本市市民会館・熊本市国際交流会館

## 日本文学協会

①〒170豊島区南大塚2-17-10 03-3941-2740 ②11月9・10日 ③相模女子大学

## 日本文学風土学会

①〒359所沢市泉町1789 秋草学園短期大学国文科研究室 0429-25-1111 ②11月16日 ③昭和女子大学

## 日本方言研究会

①〒192-03八王子市南大沢1-1 東京都立大学国語研究室内 日本方言研究会幹事 0426-77-2135 ①〒115北区西ヶ丘3-9-14 国立国語研究所気付日本方言研究会幹事 03-3900-3111 ②10月18日 ③愛媛大学

## 俳文学会

①〒192-03八王子市大塚359 帝京大学文学部内0426-78-3332 ②10月5～7日 ③いわき明星大学

## 萬葉学会

①〒558大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪市立大学文学部国語国文学研究室内06-605-2413・2414 ②10月5～8日 ③東京大学

## 和歌文学会

①〒112文京区目白台2-8-1 日本女子大学日本文学研究室03-3943-3131内7300 ②10月19～21日 ③日本女子大学

## 和漢比較文学会

①〒560豊中市待兼山町1-16 大阪大学共通教育機構文学研究室内 06-850-5663 ②9月28～30日 ③金沢学院大学